

下の被験者は教育年数も少なく園内の身分も助手が多いことと関係があるかと思われる。

B 経験年数 分散分析の結果有意で、十年以上のものが有意に得点が小さくなっている。これは経験年数十年以上のものは年令も高くなることと関係があると思われる。その他においては差は見られない。

C 教育年数 分散分析の結果有意差はみられなかった。

D 園内における身分 有意差があり助手とクラスをもたない主任がクラス担任教師とクラスを持つ主任に比し、有意に得点が低くなっている。すなわち、前者は教育に対する考え方がより權威的で、後者はより民主的である。

E 家庭における身分 有意差はみられなかった。次に保育態度調査用紙について。

各条件とも分散分析の結果有意差はみられなかった。したがって、以下に述べることは傾向を指摘するにとどまる。

A 年令 実際場面での保育態度は年令が高いほど統合的である傾向がみられる。このことは前のMTAIの結果とは逆の傾向で、年令が高いものは考え方においては權威的・保守的であるが、実際の保育にあたっては統合的・民主的で、子どもの自由を認めている。また二十歳以下では得点が小さい傾向がある。これはやはりまた園内の身分や教育年数と関係があるかと思われる。

B 経験年数 ほとんど差はみられない。

C 教育年数 一年以下が低い傾向がある。

D 園内における身分 前のMTAIと同じ傾向がみられた。

MTAIの結果と合せて次の点を指摘する事ができる。

(1) クラスを担当しない主任は考え方の上でも実際の判断でも權威的

支配的になる傾向がある。

(2) クラスを持つ主任とクラス担任教師とは考え方の上でも実際の場面でもより民主的統合的で子ども中心である。

(3) 助手は考え方の上でも実際の判断でもより權威的、より支配的である。

E 家庭における身分 差はみられなかった。

以上を総合すると次の事がいえる。

教育に対する考え方の上で、最も民主的で進歩的なのは年令が二十歳台で経験年数十年以下のクラス担任教師であり、最も權威的で保守的なのは年令三十歳以上で経験年数十年以上、園内ではクラスを持たない主任である。保育の実際にあつての判断については、最も統合的で子ども中心なのは年令四十歳以上でクラス担任教師またはクラスをもっている主任である。最も支配的なのは二十歳以下の助手またはクラスを持たない主任である。(大会抄録163—167頁)

幼稚園教師に関する研究

(観察法による教師の態度の類型)

お茶の水女子大学 福 西 百 合

子どもと直接に関係ある保育場面における教師の姿を見るために、教師の保育態度を観察し行動の種類を分類すること、保育場面における教師と子どもの相互関係を検討すること、教師の態度の類型を作ることを目的として研究した。

方法 対象は環境の異なる四幼稚園から十人の教師を選んだ。五

歳児クラス担任七人、四歳児クラス担任一人、三、四歳児クラス担

任二人であった。経験年数は十九年から六か月までと種々であった。観察した時間は、午前中教師と子どもの相互関係のある時であり、場面は自由遊びと製作とした。ここで製作は単に絵画製作のみでなく、教師の意図が比較的強く出されている音楽リズム・お話なども同系統のものとしてこの中に加えた。以上二種の場面を各一時間ずつ記録を取ったが、一日のみの記録ではなく三日から六日に分けて記録した。

記録法は、教師と子どものやりとりを会話を主にして分析し、簡単な記号で記録した。記号はムスターカスの考案した約百種目のものを五十項目に減らし、それらを九種目に綜合した。それらの種目は、S₁ || 相手への質問、G₁ || 相手への表示、D₁ || 子どもとの関係で葛藤の生じないような統合的指示、D₂ || 命令・制限・禁止で葛藤の生じる支配的なもの、Cr || 否定的評価や怒りの表現、P || 賞讃や愛情の表現、+ || 働きかけへの肯定的反応、- || 働きかけへの否定的反応、A || 間接的指導で周囲を整えたり子ども達を観察したりするものである。以上九種目以外に、子どもと直接関係のない行動があるが、それは省いた。

結果 教師の反応数は、自由遊びでは十教師の平均が二四七（一九七～二七九）、製作では平均二七九（二〇一～三七九）であり、子どもの反応数は自由遊び平均一五一（一二六～一八六）、製作では平均一七四（九九～二三四）である。十教師とも総数ではより多い反応数を示したが、種目によっては子どもの方がはるかに多いものもあった。各教師の三分の記録と一時間の記録との間の相関はかなり高かったし、自由遊び製作間でも高い相関を示した。

十人の教師を比較するとそれぞれ特徴があり、S G D₁ D₂ + A などの多い教師、少ない教師と、さまざまであった。子どもと関連づけて

反応数の多少を検討し相関を求めると、大きく二つの型が出てくる。A型は教師はG・+・Aが多く、D₁が少ない。子どもはG・Sが多く+が少ない。つまり子どもの働きかけが多く教師の態度は統合的である。

B型は教師はD・Sが多く+が少ない。子どもは+が多くS・Gが少ないものであり、子どもの働きかけが少なく、教師の働きかけが多く、教師の態度は支配的である。

A型には、H・U先生、B型には、Y先生がある。M先生は教師が子どもの動きをぼんやり見ている態度が多く、子どもの型は統合的教師のクラスの子どもに近いが、教師は支配的である。(H・U・Y・M先生の特徴は70頁の第1図～第4図参照)

これらの結果は、各教師の決定的なものではなく、その時に表われた態度であり、対象幼児の年齢や幼稚園教育経験年数、そのクラスの幼児の性質などにより異なる。また保育段階のどの程度の所かによっても左右される。したがってA型が常に理想型であるのではなく、それぞれの時期に適當な型の指導態度を取るよう教師は常に心がけるべきである。
(大会抄録167—173頁)

幼稚園教師の保育態度の研究

(その教育的考察)

お茶の水女子大学 津 守 真

教師の態度には個人差がある。前の報告にあらわれた10名の教師の中から、典型的な例を3つあげて考察する。第1図の教師Hは統